

「固定比率・固定長期適合率について」

流動資産	流動負債
	固定負債
固定資産	自己資本

企業の長期的な安全性の指標となるものに「固定比率」と「固定長期適合率」があり、「固定長期適合率」は「固定比率」の補助的な比率になります。

それではまず「固定比率」から説明していきます。

先程、長期的な安全性の指標とありましたが、

「固定比率」は、**資金の調達と使い方のバランスを調べることが出来る**指標となります。

例えば、皆さんが会社で車を購入するとします。

購入した後に最も支払を気にせずに買う方法は、全額自己資金で購入することです。

当然自己資金は返済する必要はないからです。

ただ、実際にはローン（借入）購入の場合も多々あります。

そのバランスを調べるために、固定比率によって、

長期間にわたって収益を回収する固定資産の資金源をどれだけ自己資本でまかなえているかを見るのです。

それを式で表すと

$$\text{固定比率} = \frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}}$$

という式で表すことができ、

一般的に**固定比率は100%以下が望ましい**とされています。

ですから、分子の固定資産よりも分母の自己資本が上回っているのであれば安全な水準であるといえるのです。

それでは実際にはどうでしょうか。

固定比率は100%以下が望ましいですが、

実際には100%以下になるケースはほとんどないのが現状です。

自己資金だけで持ち家を買うことがどれだけ現実的かを考えてみれば分かると思います。

クルマぐらいならローンを使わずに購入することもあるかもしれませんが、

持ち家、すなわち建物という固定資産の購入となると、

よほどのことがない限り、全額自己資金で購入するのは非現実的だと思います。

それは企業でも同じことで、

大規模な固定資産の購入資金の全額を

自己資本、すなわち返済不要の自己資金だけで補うのは非現実的です。

では、自己資金で購入資金を賅えない場合はどうするか。

その場合は、その固定資産の使用期間に応じた長期のローンを組み合わせることになりますね。

そうすることにより、長期間にわたって無理なく支払うことができるようになります。

そこで、**自己資金と長期のローンで固定資産がカバーできているかどうかを調べる指標**となるのが「**固定長期適合率**」です。

それを式で表すと

$$\text{固定長期適合率} = \frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{自己資本}}$$

という式になります。

先程の「固定比率」で100%以下にならなかったならば、
「固定長期適合率」にあてはめて計算してみる必要があります。

この指標は、長期の資本で固定資産に対する投資が行われれば低くなります。

また、投下した固定資産が効率よく稼動し収益をもたらすのであれば、
自己資本が増加することになり、この指標は向上していくことになるのです。